



平成19年 9月30日
第 5 号

公文書分類センター業務始まる

合併により旧市町村から引き継いだ公文書等の散逸防止と歴史的文書の保存を目的として、各出張所庁舎内に設けた6か所の公文書分類センターに、平成19年4月までに下表の文書が収納されました。

4月からは味方・横越公文書分類センター収納文書の整理・目録作成業務を行っています。味方センターでは19年度中に全収納文書の目録の完成を目指しています。横越センターでは、19年度中に旧公図（軸装・折り畳み）の目録の完成を目指して、作業を進めています。整理作業は味方が6人（非常勤と臨時職員）、横越が2人（同）の体制です。



味方公文書分類センター収納文書



公文書の整理作業の様子（味方センター）



横越公文書分類センター収納旧公図（軸装）

センター	主な収納文書	文書量（箱）	棚延長	床面積
味方	14支所の総務課および旧新潟市総務局の長期保存文書	約4,700	約1,600m	約500㎡
小須戸	5支所の総務課以外の課および全市の教育委員会の長期保存文書	約3,600	約1,700m	約400㎡
岩室	9支所の総務課以外の課および旧新潟市総務局以外の長期保存文書	約3,200	約1,600m	約400㎡
横越	全市の旧土地台帳および旧公図（地籍図）等	約1,600箱+約1,900本	約700m	約200㎡
月潟	14支所の国土調査・建設補助の文書	約1,500	約1,000m	約300㎡
潟東	新潟市の有期限保存文書	約3,900	約1,300m	約300㎡
合計		約18,500箱+約1,900本	約7,900m	約2,100㎡

各公文書分類センターの概要

歴史資料に関する主な事務内容

■資料の公開

歴史文化課歴史資料整備室で複製資料や図面・写真、行政刊行物などを公開しています。旧公図は19年度から横越公文書分類センター（江南区横越中央）での公開に変わりました。

利用の際は、事前に歴史資料整備室に電話連絡いただくと資料の検索が早いです。横越公文書分類センターの利用も、事前に室への連絡をお願いします。

■資料の保存

歴史資料整備室では、新潟市史編さんで収集した資料や寄贈資料等の整理を行っています。

また、資料のマイクロフィルム撮影と焼付による複製本を作成しています。今年度は、下記資料の複製化を予定しています。

- ①上大川前通斎藤家文書（明治から昭和期の資料）
- ②上大川前通小沢家文書（江戸から昭和期の資料）
- ③豊栄市役所文書（江戸から昭和期の資料）

■資料の所在調査

民間に所蔵されている歴史資料の所在や現況・分量を把握するため、平成17年度から合併市町村を地区別に実施しています。今年度は白根・亀田地区を調査しています。5月下旬から両地区の方々から多大なご協力をいただき、9月末までに35か所の調査を行いました。このうち、目録がないものは、一部を整理して記録に留めるようにしています。

また、調査の過程で、亀田郷土資料館へ2件、歴史文化課へ1件の資料の寄贈がありました。

■歴史双書の刊行

「新・新潟歴史双書」の第3巻目として、今年度は『石油王国・新潟』（仮称）を刊行します。

・四六判、約160ページ、20年3月発行予定

■歴史講座の開催

歴史資料を読み解きながら歴史を学ぶ、講座「古資料が語る新潟の歴史」を10月4日から11月1日まで全4回、新潟市生涯学習センター（中央区礎町通3）で開催します。詳しくは歴史資料整備室にお問い合わせください。

■黒埼市民会館 歴史展示コーナー

平成17年に開館した黒埼市民会館（西区鳥原）の1階ロビーに黒埼地区の歴史を紹介する小展示コーナーがあります。11月から、昭和39（1964）年の新潟地震をテーマに展示替えをします。



歴史文化施設紹介 — 巻郷土資料館 —

巻郷土資料館は巻市街北側を東西に横断する県道296号沿いにあります。昭和49（1974）年6月に旧消防署庁舎を利用して開館しました。

常設展示場には、幕末期の角海浜村で発祥した内服薬「越後毒消し」関係の資料や民具・考古資料など、およそ2,500点を展示しています。このうち市指定文化財の「のぞきからくり」は、ほかに国内で数台しか確認されていません。

「のぞきからくり」は、大正期から昭和初期まで縁日の見世物として人気を博した仕かけで、語り手の口上を聞き、レンズをはめ込んだ「のぞきめがね」を通して、次々に入れ替わる中ネタ（畳1枚分ほどの大きな押し絵）を見るものです。

このほか、資料館では「鹿兒島徳治浮世絵コレクション」「館源文庫」「新保正興関係資料」や、郷土の古文書、巻菱湖ら郷土ゆかりの墨跡・絵画・著作物などおよそ1,000点を収蔵しており、毎年春秋2回の特別展で順次公開しています。ぜひ、ご観覧ください。



巻郷土資料館



「越後毒けし散」薬袋



のぞきからくり（新潟市指定文化財）

<案 内>

- ・開館時間：9：00～16：30
- ・休館日：月曜日(休日の場合はその翌日)、休日の翌日(日曜日にあたる場合はその翌々日)、年末年始
- ・入館料：無料
- ・所在地：新潟市西蒲区巻甲3069-1
- ・電話：0256-72-6757
- ・交通：JR巻駅から徒歩10分、バス停「巻郷土資料館前」から徒歩1分



収蔵資料紹介 ⑤

■濁川連絡所文書

新潟市は大正3(1914)年から昭和36(1961)年の間に周辺13か町村と合併しました。合併町村の役場は支所となり、その後、地区事務所・連絡所となりました。濁川連絡所文書は、そうした庁舎に残されていた旧役場文書の一つです。

北蒲原郡濁川村は、明治22(1889)年の町村制施行に伴い、新崎・濁川新田・名目所・新崎新田(松潟)の4大字で成立し、昭和29年に新潟市へ合併しました。濁川連絡所文書は、濁川村の明治・大正・昭和期の行政資料を主体とし、一部江戸時代の資料も含まれています。資料点数は643点です。

掲載の資料は、宝暦6(1756)年の濁川興野(名目所)新田検地帳の写し(控)です。検地は、領主が領内の耕地や宅地を一筆ごとに調査し、地権者・面積・等級・石高を確定することで、正確な年貢の割り当てと徴収を行うための土地調査のことです。新田開発で新しい耕地ができたときも、検地が行われました。検地の結果を村ごとにまとめたものが検地帳です。

資料表紙の濁川興野は、現在の名目所にあたる地域です。名目所は、江戸時代は濁川興野と呼ばれ、濁川新田の枝郷でした。表紙に名を記している小川与惣治は濁川新田の庄屋で、濁川興野の庄屋も兼務していました。濁川興野は享保年間(1716~36)の末ごろに新発田藩領として開発され、その後4回領主が替わっています。

この検地帳は、幕領期のものです。字前川原という土地の耕地57筆を記したもので、36ページです。前半は地権者名、筆の番号、等級と面積、石高(米に換算した生産量)、課税外の道幅、筆の長さと同幅などが一筆ごとに記されています。その次に等級別の集計が記され、最後に石高と面積の合計が記されています。合計石高は37石(約6.7キロリットル)余り、面積は9町(約900アール)余りです。このうち水田が約2反(約20アール)で、ほかは畑です。字前川原は稲作に不向きで、生産量が少ない所だったと思われますが、そのような所でも正確に検地が行われていたことが分かります。

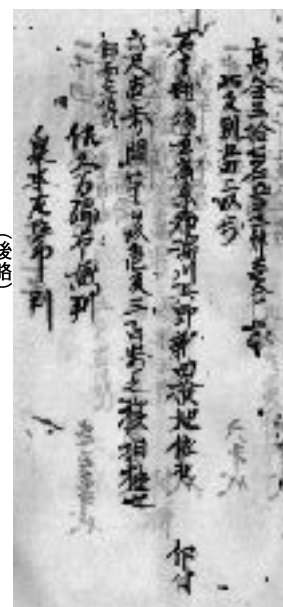
奥書には、この検地では6尺1分(約1.8メートル)の間竿(測量棒)を使い、300歩を1反と定めて測量したことが記され、最後に検地を管轄した役人、検地を実施した役人、検地に立ち合った村人の名などが列挙されています。

越後国蒲原郡
濁川興野新田子辰高入検地帳写シ
宝暦六年
小川与惣治控

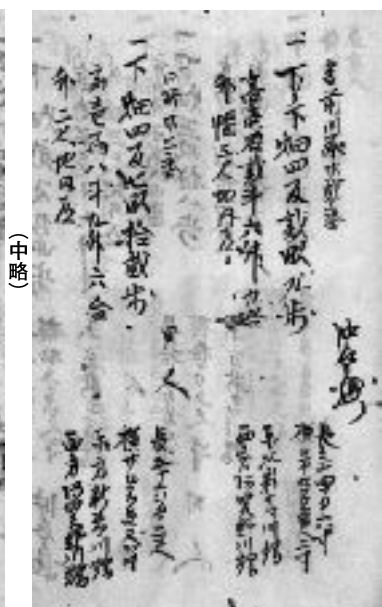
(表紙)



(表紙)



(後略)



(本文最初)

高合三拾七石五斗三升壹合
此反別九町三畝歩
(は)
右者越後国蒲原郡濁川興野、新田検地依被
六尺壹歩間竿ヲ以、壹反三百歩之積、相極也
御勘定役頭 佐久間郷右衛門判
同 泉本左太郎判
仰付、

字前川原廿貳番 仲右衛門
一 下ノ畑四反貳畝九歩 長三十四間六寸
高老石貳斗六升九合 横三十四間壹尺二寸
外幅三尺地内道 東北新井郷川端
同所廿三番 同 人 西方阿賀野川端
一 下畑四反七畝拾貳歩 長五十六間三尺
高老石八斗九升六合 横廿九間壹尺貳寸
外三尺地内道 東方新井郷川端
西方阿賀野川端

■上大川前通齋藤家文書のガラス乾板写真

齋藤家文書は、平成11年5月に市に寄贈されました。文書3,693点、写真367点、絵葉書248点です。明治期から昭和初期の豪商齋藤喜十郎家の分家の文書です。今回はこの文書群の中から明治時代後半に撮影されたと思われるガラス乾板写真を紹介します。ガラス乾板は湿気やカビにより傷んだものがほとんどでしたが、一部は傷みがありません。

写真1は、旧日和山から東方向を写した写真です。手前の石置き屋根の建物群は遊郭、中央奥の大きな屋根は願随寺と思われます。また、中央右の高い建物は、明治29(1896)年の地図によれば鶴遊楼という建物と思われます。江戸時代以来の整然とした切妻造りの町並みをうかがうことができます。

写真2は、新潟招魂社(後の新潟県護国神社)のお祭りの日の墓参りの様子と思われます。

戊辰戦争で死亡した政府軍兵士を祀る新潟招魂社は、明治元(1868)年、新潟民政局によって建立されました。場所は現在の旭町通1番町の、新潟大学医学部有壬記念館付近にあたる高台でした。

祭りでは、営所通の入口から社まで物売りや露店が立ち並んだといいます。この写真では日清戦争か日露戦争の戦没者名を書いた^{のぼ}幟を持った参詣人で混雑している様子うかがえます。

写真3は、宮浦堀です。宮浦堀は、明治5年、白山堀(一番堀の古称)や寺町堀(西堀の古称)の流れを良くするために、白山神社裏に信濃川と白山堀を結ぶように掘削されました。写真は、現在の市役所第1分館前の駐車場から市役所本館方向を斜めに写したものです。右手奥に白山神社北参道へ通じる^{さかき}櫛橋が見えます。堀の左側には明治34年に建てられた新潟県物産陳列館(翌年物産陳列所と改称)の堀が見えます。この敷地には、昭和7(1932)年に県庁が、さらに平成元(1989)年には市役所本館が建てられました。宮浦堀は、昭和39年の新潟国体直前に一番堀や西堀とともに埋め立てられ、道路となりました。



写真1 旧日和山から見た新潟の町並み



写真2 新潟招魂社の祭りの様子



写真3 宮浦堀の様子

お願い

歴史資料の所在調査を実施しています。江戸時代や明治～昭和期の文書・写真、戦中・戦後の記録などがありましたら教えてください。また、お持ちの古文書等の保存方法についての心配ごとがありましたら、歴史文化課までお知らせください。

編集・発行 新潟市文化スポーツ部
歴史文化課(担当:歴史資料整備室)
〒951-8131 新潟市中央区白山浦1丁目425-9
TEL 025-226-2584
FAX 025-230-0412
Eメール rekishi@city.niigata.lg.jp